

第29回
全国教育研究
交流集会

沖縄-全国
オンライン

子育てと教育に 「命どう宝」を 根づかせる

一人権と平和の教育をとらえ直そう

1日目

全体会 13:00～16:00

- 両代表挨拶 梅原利夫(民研代表)
長堂登志子(沖民研所長)
 - 講演 沖縄の若者たちの学校・家族・生活
～ふたつの社会調査から～
上間陽子(琉球大学)
 - シンポジウム 「沖縄から日本の教育をとらえ直す」
 - ① <不可視なもの>への想像力について
一環境、社会、そして私 安藤聡彦(埼玉大学)
 - ② 「社会」とのつながりを求めている子—義務教育と
「少年革命家ゆたぼん」 下地治人(沖縄県公立小学校)
 - ③ 休校経験の意味と学力—混乱の中から芽吹く民主主義
中村清二(大東文化大学)
- 総合討論 問題提起・講演・シンポジウムをうけて



2020年
11月28日 土
29日 日

オンライン(Zoom)
で行います

2日目

分科会 10:00～12:30

- ① 子ども・青年の育ちと主権者教育
- ② 学力向上策と道德教育の教育課程
- ③ 子育てと学校づくり・教職員の働き方
- ④ 性とジェンダー平等の教育
- ⑤ 平和教育の創造
- ⑥ 基地・環境問題と教育
- ⑦ 自治体づくりと教育・住民運動

主催
民主教育研究所

〒102-0084 東京都千代田区二番町 12-1
全国教育文化会館 5F

Tel 03-3261-1931

Fax 03-3261-1933

office@min-ken.org



沖縄県民間教育研究所

〒902-0064 沖縄県那覇市寄宮 1-8-48
那覇教育会館 1F

Tel/Fax 098-832-5988(沖民研事務局)

Tel 090-1084-3004(長堂)

toko0806toko@gmail.com(長堂)

沖縄県民間教育研究団体連絡会

後援

おきなわ住民自治研究所
おきなわ子どもを守る会

オンライン分科会の概要

- ① 全体会・分科会申し込みは「申し込み書」に従って、メールにて sanka@min-ken.org へお送りください。世話人・報告者の方も申し込みを必ず行って下さい。
申し込みは11月20日（金）厳守です。
※集会申し込みはメール（送信先 sanka@min-ken.org）のみの受付です。
- ② 分科会は11月29日（日）10時から12時30分（終わりの時間は柔軟な運営）です。
- ③ 参加申し込み者には「申し込み書」に記入いただいたEmail宛てに、全体会と7つの分科会のURL・資料を11月25日までにお送りします。
- ④ 11月29日（日）は、9時50分頃から分科会の指定されたURLにお入り下さい。
複数の分科会に参加することができます。
- ⑤ 全体会・分科会終了後に全体会・分科会の感想を sanka@min-ken.org にお寄せ下さい。

分科会	世話人	趣旨と討論の柱	レポート
第1分科会	子ども・青年の育ちと主権者教育 梶村光郎 (沖縄大学) 馬場久志 (埼玉大学)	自己責任論のもとで、社会経済的にも精神的にも困難を抱え孤立する人々が生じている。このことに子どもたちの生活も巻き込まれている。子どもたちの生活や思いの実態を、子どもたちの目線から理解する必要がある。コロナ禍はそれに向き合う機会となった。子どもの成長を願う実践を共有し、貧困と格差、平和と民主主義など底流の問題を明確にしたい。子どもの権利を、子どもたちとともに実現したい。	①問題提起 馬場久志（埼玉大学） ②「コロナ禍で考える保育の真と新」 与那覇沙姫・大道ゆうこ（沖縄・読谷村立保育所） ③「子どもたちの『今、ここ』を寿ぐ学校を」 大江未知（兵庫県公立小学校教諭）
第2分科会	学力向上策と道徳教育の教育課程 和泉康彦 (沖縄・数教協) 船越裕和 (沖縄小学校・全生研) 金馬国晴 (横浜国立大学) 中村清二 (大東文化大学)	道徳の教科化、学力向上対策など、上から与えられる学習が蔓延している中、子どもが意欲、興味をもってつくり出す学びを求めたい、つまり子どもと学びの関係、子どもと教師の関係、教育内容と教科書の関係、さらには子どもの認識と教育の論理との認識を問うのである。民主的教育実践への見通しをつかみたい。	① 問題提起 金馬国晴（横浜国立大学） ②「道徳の教科化と学校スタンダードによって子どもたちがどんな様相を見せているのか」 船越裕和（沖縄県公立小学校・全生研） ③「学力テスト全国6位、その光と影」 和泉康彦（沖縄・数教協）
第3分科会	子育てと学校づくり・教職員の働き方 儀間奏子 (沖縄小学校・日生連) 三村和則 (沖縄国際大学) 松田洋介 (大東文化大学) 勝野正章 (東京大学)	子どもの実態と教職員の働き方に焦点をあて、学校が直面している困難を打開する実践の道筋を探る。近年の教室レベルでの統制強化の実態を整理しつつ、学校を地域社会に開き信頼を回復する道筋を探る。また、教職アイデンティティと教師の働き方の変容を理論的・実態的に整理し、教員文化のもつ限界とそこに胚胎している可能性を浮かびあげる。それらを通して、「人権と平和の教育」を再創造するために学校が果たしうる役割を追求する。	①問題提起 松田洋介（大東文化大学） ②現代の教員文化の変容と働き方改革 長谷川裕（琉球大学） ③小・中・高校現場の働き方改革の現状と課題 澤岨優子（沖縄県教職員組合那覇支部） 照屋 淳（沖縄県立高校） ④綱（つな）からつながる地域の輪 儀間奏子（沖縄県公立小学校）

第4分科会	性とジェンダー平等の教育	<p>船越裕輝 (沖縄性教協)</p> <p>村末勇介 (琉球大学)</p> <p>杉田真衣 (東京都立大学)</p>	<p>子ども・若者の人権について考えるときに欠かせないのが、性をめぐる問題の認識である。しかし性の問題は、とても身近にあり、生命にも深く関わるにもかかわらず、無いことにされやすいものとしてある。日頃から子ども・若者のそばにいて、ともに悩み、考えると同時に、地域の課題とその背景にある社会構造の問題に対峙しなければ、それは見えてこない。本分科会では、沖縄の地で日々格闘し、地域の実情をよく知るお二人の報告を通じて、現状認識を共有し、今後の実践・運動の方向を探る。</p>	<p>① 問題提起 杉田真衣 (東京都立大学)</p> <p>② 学校・地域から見える子ども、若者の性 笹良秀美 (沖縄・助産師)</p> <p>③ 沖縄で生きて学んで作りだす～性と生、障害、平和の学び～ 安里瑞穂 (特別支援学校中学部)</p>
第5分科会	平和教育の創造	<p>山口剛史 (琉球大学)</p> <p>中嶋哲彦 (愛知工業大学)</p>	<p>平和と戦争をめぐる歴史と認識を子ども・若者に押し付けるのではなく、子ども・若者が自分の言葉でそれらを共有し合うことを目指して、平和教育の在り方を探求する。報告1は、対馬丸事件を素材に日米の若者が一緒に考える教育実践の報告。報告2は、県外の修学旅行生に戦争遺跡・普天間基地・ヘリ墜落事件を自分自身の言葉で紹介する活動を続ける沖縄国際大学からの報告。</p>	<p>① 問題提起 山口剛史 (琉球大学)</p> <p>② 「国を越えて歴史認識は共有できるのか? : 対馬丸事件から考える」 北上田源 (琉球大学・非常勤)</p> <p>③ 「大学生による修学旅行生への平和学習支援の取り組み: スマイライフの活動実践」 (沖縄国際大学スマイライフ)</p>
第6分科会	基地・環境問題と教育	<p>喜屋武幸 (沖縄中学校・全生研)</p> <p>屋慶名 美和 (沖縄民間教育研究所)</p> <p>名嘉 正勇 (沖縄民間教育研究所)</p> <p>安藤聡彦 (埼玉大学)</p>	<p>本分科会は、環境問題と教育、とりわけ米軍基地 (米軍基地建設) 問題と環境、教育について考える。地球環境問題を概観しながら、環境問題と子どもやわたしたちの生活について深く掘り下げる。また米軍基地が環境汚染の元凶になっていること、そして地域住民に健康不安が広がっていることを深刻に受け止めたい。米軍基地に関する問題が何年たっても一向に解決できない背景に日米合同委員会の存在があることも検討したい。</p>	<p>① 問題提起 安藤聡彦 (埼玉大学)</p> <p>② 「環境教育と子どもの社会参画; 沖縄と本土との往復のなかで」 大森享 (元北海道教育大学)</p> <p>③ 「米軍基地と環境～PFOS 問題～」 屋慶名美和 (沖縄県民間教育研究所) 名嘉 正勇 (沖縄県民間教育研究所)</p> <p>④ 「辺野古の米軍新基地建設問題と地域の生活・教育」 喜屋武幸 (沖縄中学校・全生研)</p>
第7分科会	自治体づくりと教育・住民運動	<p>赤嶺ふきこ (おきなわ子どもを守る会)</p> <p>朝岡幸彦 (東京農工大学)</p>	<p>憲法が保障している、地方自治・平和に生きる権利や人権等が踏みにじられている沖縄にこそ真に日本国憲法と地方自治の実現が切望されており、そのためには住民の住民による住民のための自治の地域研究所として自治体・住民運動は憲法と国連・子どもの権利条約を普及、実現するため、沖縄の自治の歴史と地域づくりの現状と未来について、自治体運動・住民運動の視点から議論をしたい。</p>	<p>①問題提起 朝岡幸彦 (東京農工大学)</p> <p>②沖縄の地方自治と教育運動 安原陽平 (独協大学)</p> <p>③教育権保障と自治体の役割 石山雄貴 (鳥取大学)</p> <p>④憲法を子どもの権利へ 赤嶺ふきこ (おきなわ子どもを守る会)</p>